

# 乙女高原が好き！ 1602 号

## 今年も 乙女高原で スミレぜんまい!!

「どうも乙女高原にはたくさんのスミレがいるぞ!」と、フィールドガイドを作り、観察会を始めたのは2011年。それから毎年スミレ観察会を続けてきました。今年も3回のスミレ観察会を実施。うち1回は、ふもとからハイキングしながらのスミレ観察(初体験!)でした。3回とも、スミレ観察のリーダー依田 昇さんがリポートしてくださいました。

### ■第1回スミレ観察会(兼 5月の観察交流会)の報告 5月7日(土)

午前9時、鼓川温泉駐車場に集合。今回は毎月第一土曜日に行っている乙女高原観察交流会と兼ねての観察会となりました。今回は26年に順位では一番新しく見つかったフモトスミレ、フイリフモトスミレがあり、さらに今年新たにエゾアオイスミレが見つかった自然観察路登山口周辺を見て観察路を高原まで登る2時間のコースを設定しました。山梨CATVがスミレハイキングに同行取材として加わることになりました。



フモトスミレ

8時30分頃になると、参加者の車が続々と到着してきました。私の予想参加者は乙女高原関係者と合わせても12~3名と考えていたので、20名近い参加者、10台近い車、駐車場に置いておくわけにもいかず、時間も迫り、開会の挨拶も、山梨CATVの方の紹介もそこそこ、山本さんに車の采配をお願いして、観察路入口まで移動、同乗者を残し四季の森の所に車を置き、2台に運転手を乗せ観察路まで戻り、全員でスミレを見ながら登り始めました。

いくつかのマルバスミレ、フモトスミレ、タチツボスミレは登山口周辺に見られましたが観察路ではフモトスミレがポツリと顔を出すだけでした。今年というよりここ2~3年スミレだけではなく山野草の花咲く時期がだいぶ早くなっています。箱根も3月にスミレが咲き始めます、1カ月近く早く咲くものも出てきています。昨年今頃は、アケボノスミレやエイザンスミレがフモトスミレと一緒にたくさん咲いていたのですが、スミレの他は、ネコノメソウ、コンロンソウ、マムシグサ、コミヤマカタバミが見られました。

母母峠の岩山から富士山を見て、岩場に咲くヒカゲツツジに見とれました。高原に出る山道はサンリンソウがいっぱい咲いていました。ほぼ時間通りの12時10分ぐらいにグリーンロッジに到着、この時の温度23度でした。

ここで山梨CATVのインタビューを何人かの方が受けられ、1時間弱の休憩、昼食をとりました。この時間出来たら参加者の皆さんとスミレ談義もしたかったのですが、なぜか余裕が無く、休憩が終わってしまいました。

私の予定ではヨモギ頭は今日は外してあったのですが、午前中あまりスミレが見つからなかった事もあり、日当りの好いヨモギ頭は次の観察会では終わっているのではないかと思い、登る事にしました。今年は、いつもあるエイザンスミレが森のコースに一株も咲いていません、これも観察会には付いてくる自然のいじわるなのか、ヨモギ頭では薄くすんだ富士山とカラマツのパイナップルの花が迎えてくれました。アケボノスミレは最終章、ヒナスミレ、エイザンスミレは姿なく、アカネスミレが少し咲いているだけでした。でもまさかと思う事もありました。1輪だけでしたがヒゴスミレの素晴らしい姿が見られました。素晴らしい香りを久し振りに嗅ぎました。高原の中は足の踏む場もないくらいフデリンドウの花がいっぱい咲いていました。ヤマナシの白い花が満開でした。



場所を湿原に向かう山道に移しました。井上さんが下見で探しておいてくれたサクラスミレを観察。以前なら5月後半でなければ見られなかったものが、少し小型ながら数十株見ることができました。2回目の観察会が楽しみになりました。湿原で山本さんがヒメゴウイチゴを教えてくださいました。白い可愛い花が5葉の上に乗っていました。四季の森では、可愛いミヤマスミレ、ヒメイチゲをみました。15時、閉会、解散となりました。

## ■第2回スミレ観察会の報告 5月15日(日)

11時に遊歩道作りが終了した為、スミレ観察会を12時30分に繰り上げました。しかし、正確には13時～15時半になっているので、植原さんに待機してもらいました。今回は、1班→山本リーダー・山本リーダーの友人七名、2班→依田リーダー・五名と乙女高原案内人、井上さん、三枝さんとお孫さん、芳賀さん、依田三枝子、3班、植原リーダー・午後から参加の四名・・・という体制で観察会に出発しました。午前の遊歩道作りの時点で、ヨモギ頭周辺のスミレは終わっている事が確認できたので、サクラスミレ中心の観察会を行う事にしました。ヤチボウズを見ながら小橋を渡と、1輪だけクリンソウが咲き始めていました。周辺に小さい花芽がいくつかあります。3回目の観察会には大きくなって咲いているでしょうか。

毎年、シロバナサクラスミレが見られる場所に着きました。皆で探し始めました。サクラスミレは小形ながら、所々で咲き始めていました。「シロバナがあるよ」誰かが叫びました。ここ2～3年大体同じ場所に2～3株が見つかります。今年もほぼ同じ場所で3株見つかりました。周囲を探してみたが、他には見つかりませんでした。

次に、第1回観察会で、きれいで、形も良いサクラスミレが見つかった湿原に向かう山道に移動しました。「乙女高原を代表する素晴らしいサクラスミレ」がたくさん観察できました。写真を撮っていると、幾つか葉裏が濃紅紫色のサクラスミレが見つかりました。3～4年前に、いく株かあったチシオスミレかと思いましたが、葉脈に斑が入っていません。次回に再度観察してみようと思います。

今回は各班別行動で、別々に解散に決めていたので、駐車場に戻り、車で四季の森まで下りました。ミヤマスミレがまだ少し残っていました。タチツボスミレ、ニョイスミレが咲いていました。すぐ横の路端にシロバナエゾノタチツボスミレ、マンジュリカや、ヒメイチゲもまだ少し咲いていました。ここで今日の観察会は終了となりました。

2班で一番楽しそうに観察し、写真を撮っていたのは、甲府から来たご夫婦。以前にはファンクラブの会員だったとか。もっと多くの新しい参加者の出会いの場になってほしいと思います。各班とも、2班とだいたい同じ道順のようだったので、スミレも同じように観察出来たと思います。さて第3回スミレ観察会にはどんなスミレに出会えるのか。



シロバナサクラスミレ

## ■第3回スミレ観察会の報告 5月28日(土)

3～4年前ならこの時期、サクラスミレが満開でした。昨年、今年は5月なのにスミレはもう終わりに近づいています。そんな中今年最後のスミレ観察会を10時にスタートさせました。参加者は山井さん夫妻、渡辺さん、鈴木さん、塚田さん、小林さん、植原さん、依田夫婦の9人。

最初に、早朝の高原に来て下見してくれました山井さんが水ヶ森林道を100メートルぐらい行ったところにエゾノタチツボスミレがたくさん咲いているくぼ地があるというのでそこに向かいました。途中の道端で2輪ササバギランに出会いました。乙女高原のエゾノタチツボスミレは全体に小型ですが探すとかかなりあちらこちらで見つかりますが、このくぼ地では一か所としてはかなりの数を見ることができました。次はどこに移動しようかと考えましたが、残っているスミレを見つけながら観察する事に決め移動しました。サクラスミレ、エゾノタチツボスミレ、タチツボスミレ、マンジュリカ、ツボスミレ、アカネスミレ、ソラムキタチツボスミレは観察できましたが、もう新しいものは見つかりませんでした。スミレと共にこの時季見ごろを迎える満開のズミの木、クリンソウ、レンゲツツジは今年もおおいに楽しませてくれそうです、エゾハルゼミが泣き叫ぶ中で植原さんよりセミの雌雄の見方、クリンソウの遺伝子型の見分け方を教わりました。

スミレ観察会は今後も継続していきたいと思いますが、時期、回数、場所等、難しい事柄がいくつか出てきています。参加者の皆さんに「来年もご協力をお願いします」と述べ、今年の観察会を終了しました。

私は、今回3回のスミレ観察会で来年に向けてのちょっとした観察ポイントを考えています。自宅に帰ってからの事ですので観察会では話せませんでしたが、過去の観察会では、1回目の観察会で1～2輪しか見ていなかったマンジュリカを、今年は2回、3回の観察会でたくさん見たという事です。しかも、かなり大型で容姿もよいスミレでした。それだけではなく1輪は写真で見ると10数年前箱根で見た、ミウジンスミレそのもののようでした。妻もそれは知っていて唇弁の奥を見ていたようです。妻はその時は言いませんでしたが唇弁の奥は白かったそうですのでマンジュリカでした。ミウジンスミレも見たいと思いますが、サクラスミレ+マンジュリカ=アルガスミレももう一度見たいと思っています。マンジュリカがたくさん見つかった事は可能性を感じさせてくれます。夏の乙女高原の山野草も見に来てください。シカ柵で覆った乙女高原の初めての夏、素晴らしい出会いが待っている事を期待します。乙女高原の春の行事、スミレ観察会にご参加いただいた大勢の皆様ありがとうございました。



エゾノタチツボスミレ

## ■オマケ・・・谷地坊主観察会が黄色いスマレ観察ハイクに 6月4日(土) ※このみ植原記

6月4日、朝早く起きて、谷地坊主観察会のために観察道具を自作し、乙女高原まで登り、観察予定の湿地に行き、観察会の流れを考えました。ところが、参加者の皆さんが集まり、話を始めたところ、たいへんなことがわかりました。山本さんがご友人と4日前に探索し、「黄色いスマレ」を発見したということです。冬の乙女高原フォーラム(テーマはスマレ)で講師のいがりまさしさんが存在を予言したスマレです。参加者はそんなに多くありませんでしたし、皆さん、ファンクラブの関係者やイベントへの参加体験者ばかりだったこともあり、「谷地坊主観察会はお休みにして、そのスマレを見に行きませんか？」と提案。谷地坊主はいつでも見られますが、黄色いスマレは今しか見られない・・・というか、今なら見られる！！からです。

参加者は7人。途中まで車で行き、そこから歩いて現地に向かいました。乙女高原よりだいぶ標高が高い場所です。こんな時期なのに、まだタチツボスマレやミヤマスマレが咲いていました。ミヤマザクラはまだつぼみ。

1時間以上、歩いたでしょうか。突然、黄色いじゅうたんのような黄色いスマレの群落が迎えてくれました。苔むした岩に冷たい水の流れるような、少し湿った場所でした。キバナノコマノツメは名前に「スマレ」が付かないスマレです。他のスマレに比べ、花びらが長細く、人間に例えると、手足が長いスラッとした体格でした。ずっと見ても、見飽きません。「このスマレに虫が来ているところを写真に撮りたいな」と粘ったのですが、願いは叶いませんでした。せっかくなので、黄色いスマレの群落を眺めながら、おにぎりを食べました。



カラーでお見せできず残念。  
黄色いキバナノコマノツメ

## モニ 1000 ヤマアカガエル産卵調査

### ■4月2日(土) 乙女高原観察交流会と兼ねる 山本義人さんのレポート

曇り。今月の観察交流会はヤマアカガエルの産卵調査と兼ねて実施されました。参加者は、植原さん、三枝さん、依田さん夫妻、それに私、山本とその同行者2名の7人で行きました。用事で参加できなかった人や早めに帰られるご都合の方もいて、最後まで参加者は4名。車3台で乙女高原に向かいました。

先月の観察会ですでに卵塊が見つかったいた袖口林道沿いの産卵場所ではすでに卵塊の形は消滅していてオタマジャクシになっていました。たくさん数がかたまっていたものや、活発に動き回っているものなどが観察できました。気温は6.0℃とうすら寒く、水温は6.3℃とほんの少しだけ気温より高めでした。

乙女高原名物の谷地坊主がたくさん見られる湿地帯での調査は3箇所、湿地を歩くので長靴に履き替えました。

こちらの気温は4.8度C、水温は5.5度Cでした。こちらでは先月の観察会では見つからず、3箇所いずれでも卵塊の形で見る事ができました。植原さんは先月の観察会後にも来られていて、事前に卵塊を確認されていたので、調査はスムーズに進みはかどりました。調査結果はちゃんと記録に残して、日本自然保護協会の里山モニタリング調査データとして報告されます。湿地帯にはクリソウの芽生えも見られました。同行してくれた仲間の一人が、水中で丸めた葉を背負ってヤドカリのように動いている虫を見つけました。植原さんに尋ねるとトビケラの仲間の幼虫で、成体は蛾に似ていて、ヨツメトビケラだろうとのことでした。ツチハンミョウの仲間のヒメツチハンミョウの成体も見ることができました。



トビケラの幼虫は葉の中にもぐってしまい写真に撮れませんでした。ツチハンミョウはじっとしていたので写真に撮れました。湿地は水源湿地と言われ、水が湧き出していてここから川が始まります。シカの抜け毛が落ちていました。水を飲みに来ているのでしょうか。周辺には鹿の通り道もあってシカの皮剥ぎで枯れた木がありました。枯れたので虫が穴をあけ、その虫を取り出して食べようとさらにキツツキの仲間がつつくといったストーリーが観察できたのがおもしろいと思いました。

ヤマアカガエルの産卵調査を終えたところで、植原さんと依田さん夫妻は帰られ、残った4人はロッジ駐車場に車を移動して、観察交流会を続けました。草原には霧がかかっていたのですが、防鹿柵の中を森のコースを歩いて草原の上まで行きました。遊歩道にクチベニタケはまだ残っていましたが、口紅も色あせて口元が白くなっていて、ほとんど全部が孢子は飛ばした後でした。あいにくの天気富士山は見えませんでした。柵の外に出て私の同行者にブナじいさんを紹介するため往復してきました。三枝さんも草刈行事などのイベントではいつもスタッフとしてロッジ前

での役割を務めているので、久しぶりにブナじいさんのところまで来られたとのことでした。根元回りに敷き詰めた落ち葉が飛散して無くなってしまっていたので、敷き方を工夫しないと子供たちがやってくれるせっかくの作業だからとのコメントでした。

柵の中に戻って、柵の内外でササの状態が顕著に異なるのを観察できる場所を見てからレンゲツツジの群落地へと下りました。枝先には種子を飛ばすため裂開した果実と膨らみ始めた冬芽が同居しています。同行者にダケカンバ、シラカンバ、ヤエガワカンバのカンバ3兄弟を説明してからロッジ駐車場へと戻りました。

食事をとっていると、道路を二人連れが歩いて来られたので、三枝さんが応対してくれました。神奈川県から来られたということで、焼山峠に車を置いて歩いてこられたようです。高原が好きで、最近乙女高原のことを知って興味を持ったので来てみましたとのことでした。乙女高原ファンクラブへの勧誘を試みましたが、申し込み書がなかったので、ネットから植原さんに連絡をとってもらえるようお願いしました。ロッジ駐車場に着いた11時頃の気温は7℃でしたが、午後1時頃には霧も晴れて青空が少し見えるようになってきていて、気温は10℃ありました。

今回もいろいろ発見があって楽しく勉強になりました。自分だけでは見過ごしてしまうようなことも何人かで歩くことで気づくことが増え、お互いに教え合ったり意見交換できるのが観察交流会のいいところですね。参加していただいた皆さんご苦労様でした。そしてありがとうございます。

## ■4月16日(土) 井上敬子さんのレポート

4月16日、春霞のかかった暖かい陽ざしの日、カエル産卵調査に同行しました。

いつものように牧丘の道の駅を出発、柚口林道を登って、最初の観察ポイントではビロードツリアブが10匹ほど、枯葉や枯れ枝の先をつつきながら、飛び回っているのが目につきました。花を探していたのでしょうか。ここでは、ヒキガエルのロープのような、大きい卵塊がありました。そして、疲れた感じのヒキガエルが泥の中に潜ろうとしているのと、明るい茶色のヒキガエルが姿を見せていました。明るい色の彼？彼女？はしばらくじっとしていましたが、ゆっくりと動き出し、意外と素早く岩の近くに移動して水の中に姿を消しました。ハシリドコロがたくさん花をつけていました。



しばらく林道を走るとキブシの花があつたので、車を停めて見ていると植原さんがコマルハナバチの女王を発見。キブシの蜜を集めていたのでしょうか。しばらく花のあちこちを飛び回っていましたが、どこかに飛んで行ってしまったので移動。スマレ観察会の講師の依田さんが教えてくれた山の神の所を観察しました。そこではヒナスマレが咲き始めていましたが、まだ小さい葉が多かったです。イヌシデ？の葉が赤い芽の中から伸び始めていて細かい葉脈のすじと明るい緑色が美しかったです。

次に産卵ポイントの2カ所目。ヤブサメの囁きを聞いた植原さん。残念ながら私には聞き取れなかったけれど…。小さな体で渡りをして来たとのこと、すごいです。ここでは、ヤマアカガエルの新しい卵塊とオタマジャクシになっているものがありました。卵の数に比べて、オタマジャクシの数が少ないのは、何かに食べられたりしたのでしょうか。また、ヒキガエルの卵もたくさんありました。この場所は陽当たりがよく、タチツボスマレ、エイザンスミレ、ヒトリシズカ、セイウタンポポが咲いていました。

またしばらく行くと、まだ色の少ない林の中に真っ赤に染まっている木が目に入りました。カツラの木です。花が赤く咲いているのではなく、芽吹きの色。つまり、葉っぱの赤ちゃんがこんな色をしているのです。こんなに赤くなっているのは初めて見たので、感動でした。植原さんは早速林道から下に降りて木の近くまでいきましたが、下から見るとあまり赤く見えなかったとのこと。でもコガネネコノメ、ヤマエンゴサク、ニリンソウがあったそうです。栃姥の木の所でアブラチャンを観察、ヤマエンゴサクやハシリドコロが咲き始めていました。

産卵の観察ポイント、3カ所目の湿地ではヤマアカガエルの卵が4腹と卵からかえって間もないひじき状のちいさなおタマジャクシが見られました。ここでは気温は13.5℃でしたが水温は16.5℃(11:30現在)で「水温む」という感じでした。陽がよく当たり、水も温まったのでしょう。

次に乙女高原の谷地坊主のある湿地で観察。前回調査の時の卵塊以外に新しいヤマアカガエルの卵塊がいくつもありました。クリンソウやコバイケイソウの芽も出ていました。2月の観察交流会で見つけた鹿の骨も見に行きました。鹿の毛がたくさん地面に広がっていて、鳥たちが巣作りの材料に喜びそうと話になりました。骨は移動している部分もありましたが、ほぼ残っていて、頭蓋骨の中にはシデムシがいました。

あちこち寄り道しながら観察してきたので、ロッジに着いたのは12時30分。気温は16℃と暖かく、のどかでした。昼食後、草原を一回りしました。森のコースで塩平から黒平峠を経て乙女高原まで来たという男性に会い



ました。ちょっとびっくりしました。ツノハシバミが花をつけていました。草原では冬は青々としていたフユノハナワラビが枯れかけていて、彼らはどんな暮らしをしているのだろうか話題になりました。草原は小さな草花の芽が出始めたばかりで、春の装いになるのはもう少し先でしょう。

帰りは塩平への林道を下りました。自然観察路入口付近のスマレがどんな様子か楽しみにしていました。すると、その付近にはヒナスマレがたくさん咲いていました。フイリヒナスマレもありました。ヒナスマレはスマレのプリンセスの名の通り、かわいらしい姿でした。またフモトスマレも咲き始めていました。そしてここでエゾアオイスミレを見つけました。乙女高原の28番目のスマレということで、嬉しい発見でした。

木々が芽吹き始め、山はなんとなくふんわりとしてきましたが、まだ茶色っぽい中、バッコヤナギの白っぽい緑がよく目立っています。マルハナバチの女王もよくやって来るとのことです。そして鳥たちも賑やかで、沢沿いではミソサザイのよく目立つ囀り、そここでコガラやゴジュウカラの囀り、キツツキ類のドラミングを聴くこともでき、いくつかの鳥の姿を見ることもできました。まだ春浅い乙女高原ですが、春は確実にやってきています。とても楽しく、充実した観察会でした。皆さんも春の乙女高原へ行ってみませんか。

## ■4月30日(土) 小林 茂さんのレポート

<ヤマアカガエルの産卵状況>

- ①仙口林道入り口付近 産卵無し、オタマジャクシ無し
- ②仙口林道中間地点水場 産卵無し、オタマジャクシ多数
- ③乙女高原下湿地帯 産卵1腹/オタマジャクシ、ヒキガエル産卵1腹
- ④旧山梨高校跡地奥の水場 産卵無し、オタマジャクシ

<調査中の出来事>

- ・②で「シシシシ」というヤブサメの鳴き声と姿を確認(とても小さな鳥です)
- ・林道途中でイタヤカエデの黄色い花確認。花には見えずまるで葉のよう。
- ・マムシグサは雄と雌の見分け方、中に入った口の中が出やすいような大きな出口があるのがオスだそうです。
- ・湿地入り口にカラマツの枯れた葉がモッコリとしていたので素手で触った中は蟻だらけ！ 植原さんから「エゾアカヤマアリ」と教えていただきました。気をつけないと噛まれて痛い目に！
- ・昼食後高原内の散策を行いました。富士の見えるポイントで私の目の前にギフチョウが風に乗って現れました。その際はまさかと思いましたがその後ブナジイまでの移動の際に植原さんからこの時期に風に乗ってギフチョウが高原のスマレで吸蜜するとの話が出て「さっき見ました！」と驚きの話です。
- ・草原内の花たちは、ミツバツチグリ、キジムシロ、フデリンドウ、アケボノスマレ、ヒゴスマレの葉
- ・富士の見えるポイント脇のカラマツの花が咲いていました。
- ・④でタカ等が鳥を捕食して食べた残骸を発見。その場所は視界を遮る物がなく鳥には安全な場所でした。
- ・高原を降りスマレ観察会の下見を兼ねて塩平から母々峠の遊歩道入り口でスマレの観察を行いました。確認できたスマレはマルバ、アケボノ、タチツボ、エイザンでした。スマレにはビロードツリアブが来ていました。

<感想>

- ・集合時には、どなたも見えず遅れてしまったかと心配していましたが、植原さんが見えたときにはホッとしました。
- ・二人だけの調査と観察は楽しい時間でした。ありがとうございました。



## 17年(回)目の「遊歩道づくり」・・・参加者ちょっと増加!!

5月15日(日)。とにかく天気に恵まれました。天気がいいとそれだけで気分がいいし、準備や片付けが楽だし、何より事故が発生するリスクが激減するのがありがたいです。反面、(秋の草刈りボランティアのように)悪天候の経験がないと、なんか「雨は降らない」という前提で準備しちゃうんですね。それはリスクマネジメントとして問題です。「せっかく準備してもらったテントを使わず、骨折り損でした」ではなく、「使わなくてよかったですねー」という評価をしなければいけないと思います。

昨年秋の草刈りボランティアの参加者数が少し盛り返してよかったなあと思っていましたが、この遊歩道づくりも若干、参加者数が持ち直しました。「街の駅に置いてあるチラシを見てきました」という方もいて、街の駅で展示を始



めてよかったなと思いました。若い人、子どもたちにもっと来てもらいたいです。でも、今は超高齢化時代。そもそも若者や子どもは絶対数が少ないし、塾だのスポ少だの忙しいですからね…。

さて、今回の遊歩道づくりについて、いくつかご報告です。

- ①今年もまた、(株)田丸・田丸グリーン基金から助成金をいただきました。大金なので、大勢の方にその証人になってもらいたく、始めのセレモニー終了後、皆さんの前で贈呈していただきました。2004年から毎年毎年いただいていますので、今年で13年目になります。本当にありがとうございます。
- ②やはりペットボトル茶の配布は必要だと思いました。春の遊歩道づくりにしても、秋の草刈りにしても、年々、「暖かく(暑く)」なっているような気がします。熱中症対策のためには水分補給が欠かせません。ましてや、天気の良い日ならなおさらです。
- ③新品のロープがグデにならないで済みました(「グデになる」は山梨の方言で、糸などが、こんがらがること)。巻いてある新品のロープをそのまま大きなビニール袋に入れて、そこから穴を開けて糸を出すようにしたのです。すごい生活の智恵だと思いました。
- ④いつにも増して、終了時刻が早かったです。11時にはもうほとんど作業は終了していました。それもそのはず。マニュアルには、一つの班を「上から小班」と「下から小班」の2手に分けて作業をすると効率的…とありますが、ツツジコースはスタッフが3人だったので、さらにもう一つ小班を増やして、計3箇所からロープ張りをスタートさせたんだそうです。やはりスタッフが多いと作業が早くなるんですね。皆さん、来年はぜひスタッフを引き受けてくださいね。



## 今年は1年中…「乙女高原展」!! in 街の駅やまなし

「その道の達人」から「自然を知る・守る」ツボを伝授してもらおう…と、毎年開催してきた「乙女高原フォーラム」。フォーラムはその日一日だけのイベントですが、それに先立って、乙女高原の展示をフォーラム会場である山梨市民会館ロビーで1か月間ほど行わせてもらおう…と始まったのが「ようこそ乙女高原へ」展でした。2006年1月に行ったのが最初で、それから2015年まで続けられました。山梨市民会館の改修工事に伴い、その展示ができなくなりましたが、「捨てる神あらば、拾う神あり」の通り、山梨駅前の一等地で、一時的・臨時的ではなく、恒常的に乙女高原の展示をさせていただけることになりました。



山梨市駅の改札口を出たら、駅前の信号を渡って、北に進みます。郵便局の北隣り、徒歩1分のところが展示会場のある「街の駅やまなし」です。建物に入って左側に乙女高原の展示スペースがあります。建物の西側には広い駐車場もあります。ぜひ、乙女高原の展示を見に来てください。



- ★第1弾 「乙女高原の写真屋さん」古屋光雄さん写真展 5月1日～6月30日…好評のうち終了
- ★第2弾 「ネイチャーフォトグラファーおとめちゃん」鈴木としえさん写真展 7月9日～8月末日(予定)

## 柵の中で刈り取りを続けたら?…「刈り取り実験」継続!!

乙女高原では伝統的に秋の終わりに草刈りをしてきました。ファンクラブはその伝統を継承して11月23日を草刈りボランティアの日としていますが、それ以外の時期に草刈りしたらどうなるか? という実験の4年目です。元麻布大学教授・高槻先生の指導のもと行っています。昨年秋にシカ柵が設置されましたから、今年の草刈り実験は「シカの影響のない柵内で、人工的にシカの食害と同様な刈り取りをすることが草原の草たちにどんな影響を与えるのか?」を調べることになります。まず、高槻先生が調査を行い、宮原さんが草を刈り、三枝さんと植原がかった草を運び出しました。ちなみに、刈り取られた草の総重量を昨年と比較すると、6月区 約46キロ(2015)→約20キロ(2016)、6/9月区 約8キロ(2015)→約4キロ(2016)と、両者とも半減していました。

★次回刈り取り実験 9月18日(日) 午前10時～午前中

過去6年間の最高気温は  
27.5℃。里がどんなに猛暑日  
でも30℃にならない!

涼しい乙女高原で



“夏のたからもの”を見つけるワクワクを!

みんなが見ている前でマルハナバチが花にもぐっていったよ。なんと下から↑

### 「マルハナバチ調べ隊」調査員募集!

毛むくじゃらで、おデブ。ハチなのに、めったに人をさしません。マルハナバチは花たちにとっても頼りにされています。そんなマルハナバチを観察・調査しましょう。

- 8/6(土),9/3(土) 午前10時~午後2時半。
- 集合→乙女高原グリーンロッジ前広場
- プログラム=マルハナバチ紙芝居→ライン・センサス調査→待ち伏せ調査→調査結果の分かち合い
- 募集=20人。小学校4年生以上(小さいお子さんでも保護者と一緒ならオッケー)。調査経験無用。申し込み順。
- 参加費→無料。持ち物→筆記用具,ペンとう,雨具。

### 乙女高原案内人・夏休みボランティアガイド

ロッジが営業していたころ、毎週末、乙女高原案内人が交代で乙女高原に駐在し、訪れた方のガイドをしていました。それを少しでも復活させます。乙女高原に来られたら、「レンゲツツジとマルハナバチ」のワッペンを付けた乙女高原案内人に、お気軽に声をかけてください。

- 7/30、8/6、8/13、8/20 (いずれも土)
- 時間 午前10時~午後3時(目安)
- 場所 乙女高原グリーンロッジの庭



きれいなキノコ!



バルタン星人?!



いいにおい!



海の上を飛んで、やってくるんだって



鳥の羽根ひろった!  
きれいなもよう!



あま~い!



ぼくの腕に止まってくれた!



おしりがクルリン!



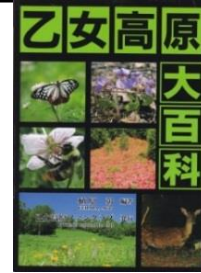
# 乙女高原ファンクラブの事務局だよ

●依田さん、山本さん、井上さん、小林さん、原稿ありがとうございました。今回のニュースレターは、このように大勢の皆さんのご協力によって完成しました。皆さんも、ぜひ原稿をお寄せください。

## 乙女高原ファンクラブの刊行物

### 乙女高原とファンクラブ11年間の集大成『乙女高原大百科』

(A5判 602頁) 草刈り開始後から配信している乙女高原メールマガジン 11年間 268号の中身を編集したら厚さ3cmの本になってしまいました。一部カラー。希望者には実費でお分けします。1冊2,000円、送料は1・2冊なら360円。欲しい方は郵便振込で1冊なら2,360円送金してください。



### 乙女高原インタープリテーションのテキスト『乙女高原案内人 誕生と成長の記録』

(A4判 186頁) 乙女高原案内人養成講座の中身と、その後の案内人の活動の様子を一冊の本にしました。希望者には実費でお分けします。1冊1,000円、送料は一冊につき360円。欲しい方は郵便振込で1冊につき1,360円を送金してください。

## 乙女高原フィールドガイド シリーズ

欲しい方は事務局までご連絡ください。



### フィールドガイドIII スミレの観察のおともに『乙女高原のスマレ・ウォッチング』

(A3判両面カラー) 乙女高原では、なんと18種類ものスマレを観察できます。このフィールドガイドでは乙女で見られるスマレたちのプロフィールを紹介するとともに、スマレ観察のポイントをていねいに解説しました。

### フィールドガイドII マルハナバチの観察と調査のおともに『マルハナバチ ウォッチング改訂新版』

(A3判両面カラー) マルハナバチの生態、ファンクラブで行っている調査、乙女高原で見られる6種(+2種)のマルハナバチの見分け方をコンパクトにまとめました。2015年に改訂版を出しました。

### フィールドガイドI 春から夏にかけて咲く草花のガイド『乙女高原のお花たち』

(A3判両面カラー) フィールドガイド第1号。春から秋に咲く47種類の草花を写真つきでコンパクトに紹介。草丈表示と草花の一言コメントが「分かりやすい」と評判です。2013年6月第3版発行。

## ■乙女高原ファンクラブの普通会员になりませんか？

『数は力』という側面もあります。ファンクラブの会員が多くなれば、それだけ乙女高原の保全に対するファンクラブの発言力が増します。まわりの方をファンクラブに『巻き込む』ことも乙女高原を守る活動の一つです。まわりの方にファンクラブをお勧めください。

### 乙女高原ファンクラブに入会するには…

- ・「入会します 氏名・郵便番号・住所・電話番号」というファックス、メール、手紙等を事務局までお届けいただければ、いつでも、だれでも会員になれます。
- ・入会金も年会費もありません。乙女高原を守る力が1人分、大きくなります。
- ・普通会员には年4回、サポーター会員には年1回、ニュースレターが届きます。
- ・普通会员には総会出席の義務がありますが(委任状可)、サポーター会員にはありません。

今号は普通会员のみに送付しています。

## ■乙女高原ファンクラブへの連絡先■

【事務局】 植原 彰(方) 〒404-0013 山梨県山梨市牧丘町窪平 1110-3

TEL/FAX 0553-35-3682 電子メール otomefc@fruits.jp

※会報への原稿や写真等の投稿もこちらにお送りください。

WEB <http://fruits.jp/~otomefc/>

●郵便振込● (番号) 00220-8-71093 (加入者名) 乙女高原ファンクラブ